

Q3：個を生かす指導の工夫はどのように行ったらよいのでしょうか。

- 指導体制の工夫
- 指導方法の工夫
- 教師の協力的指導の工夫
- 習熟度別学習の導入
- 問題解決的な学習の推進
- 体験的な活動を取り入れた学習の推進
- A： 一人一人の個性を生かし、充実した授業を行っていくためには、指導の改善を一層進めていくことが必要です。  
その一つとしてチーム・ティーチングや合同授業等、教師が持ち味や得意分野を生かし協力して指導に当たれるよう、指導体制の工夫が必要です。  
二つ目として個別指導やグループ別指導、習熟の程度に応じた指導や繰り返し指導のほか、児童生徒の興味・関心に応じた課題に取り組む学習、教材・教具の工夫や開発、コンピュータ等の教育機器の活用、評価の工夫など、児童生徒の実態や指導の場面に応じた指導方法等の工夫が必要です。  
ここでは特に四つの指導法について紹介します。
- (1) チーム・ティーチング  
複数の教師がチームを組み、持ち味を生かして協力的に指導を進める方法です。五つの個人差（学習の達成度、学習の速度、興味・関心、学習のスタイル、生活経験）に応じた指導を行うことができます。その際、教師相互の共通理解・協力関係を重視することが大切です。
- (2) 習熟の程度に応じた指導  
習熟の程度に応じて幾つかのグループ（学級）に分けて行う学習形態であり、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指す個に応じた指導法です。グループを固定せず、学習内容や理解の程度によって弾力的に編成替えをしていくことも大切です。
- (3) 問題解決的な学習  
学ぶことの楽しさや成就感を得るために、学ぶ主体である児童生徒自らがそれぞれ問題を発見したり、興味・関心のあるテーマを選び、自分の学習スタイルを生かしたりしながら進めていく学習です。この学習は計画的に位置付けられる必要があります。
- (4) 体験的な活動を取り入れた学習  
体験的な活動を行う中で、児童生徒一人一人のよさが生かされるとともに、自分なりの理解や解釈の仕方で行うことができる学習です。教科のねらいを達成する上で、どこに、どのような体験的な活動を取り入れるとよいか、考えることが必要です。

< 参考資料 >

『初等教育資料』文部科学省 平成13年9月 p8～p11

『平成13年度初任者研修の手引』 県教委 p72～p75